

# 機器の生産から艀装、設置、メンテナンスまで一括対応

## 株式会社オーツカディーゼル(大分市)



1,200馬力の防火用ポンプ駆動ユニット



大塚吉高社長（右）と小山俊二製造部長

今回は大分県大分市西新地1-1-32にある「株式会社オーツカディーゼル（大塚吉高社長、☎097-558-9271）」を取材した。あらゆるメーカーのエンジンのオーバーホールを手がけるほか、防災用・非常用・常用発電設備、72時間停電対応の無停電電源装置（UPS）、ポンプ駆動用ディーゼル動力装置などの設計から製造、艀装、設置工事、メンテナンスまで一括対応している。株式会社オーツカディーゼルとグループ企業の株式会社オオツカを紹介する。

### 創業の経緯

オーツカディーゼルの代表取締役社長の<sup>こやま</sup>大塚吉高氏と製造部部長の小山俊二氏によると、同社は、日本内燃力発電設備協会の認定工場として、まぐろ船、かつお船に搭載される船用補機関（ディーゼル発電設備）や、防災用・非常用・常用発電設備の製造、整備を行っている。また、自社ブランドのパッケージ型熱電併給システムである「オーツカ・コージェネシステム」を数百台納入した実績がある。

創業は明治35年（1902年）5月。初代社長の<sup>うすき</sup>大塚太兵氏が大分県臼杵市で船用機関の製造や修理を目的とした鉄工業を始めた。明治42年（1909年）、弟の大塚重内氏と共同で、臼杵市に「大塚兄弟合資鉄工所」を設立した。大正元年（1912年）、「株式会社

大塚鉄工所」と改称し、昭和25年頃まで船用主機関の主流だった焼玉エンジンを製造していた。

昭和22年（1947年）、船用低速ディーゼルエンジンの製造を開始した。昭和35年（1960年）、大分県大分市に進出したのを機に組織を改編し、新生「株式会社大塚鉄工所（現オーツカディーゼル）」と改称した。鋳物工場、機械工場、試運転工場まで備えた最先端のエンジンメーカーとなった。

昭和37年（1962年）、メンテナンス事業の拡充を図るため、大塚鉄工所を製造工場・加工工場（大分市）と、メンテナンス工場（臼杵市）に二分割した上で、それぞれ分社化した。それに伴い、株式会社大塚鉄工所は「株式会社オーツカディーゼル」と改称し、製造事業・加工事業を継承した。以降はエンジン発電設備、コージェネシステムといった主に陸用部門の製品の設計、製造、販売などを行っている。

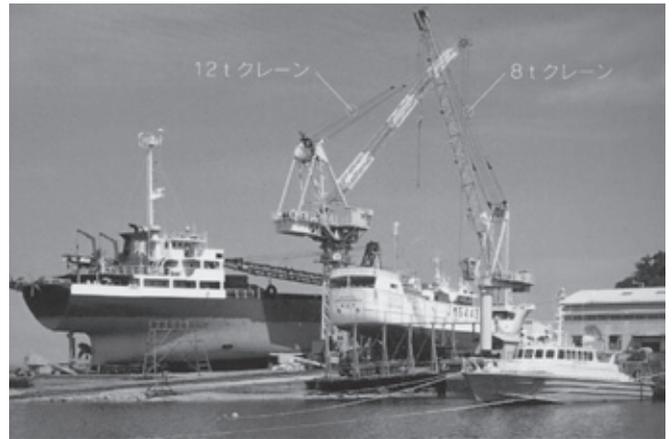
メンテナンス事業を継承した「株式会社<sup>したのえ</sup>下ノ江大塚鉄工所（現オオツカ）」は、修理専門事業場として、陸用・船用エンジンのオーバーホール（分解整備）などを請け負っている。

### 事業の変遷

オーツカディーゼルでは、昭和39年（1964年）、大型工作機械を導入し、シリンダーボア径310ミリ、



自社ブランド「オーツカディーゼルエンジン」



株式会社オオツカが誇る船舶ドック

6気筒、1,500馬力クラスの高トルク大馬力の船用ディーゼルエンジンの製造が可能となった。昭和43年（1968年）、船用低速ディーゼルエンジンの販売拡大を図るため、韓国、台湾、香港、シンガポールに代理店を開設し、現地で船用エンジンの販売とアフターサービスを開始した。

昭和50年（1975年）、日立造船因島工場向けB&W船舶用補機関（発電機用）としてシリンダーボア径230ミリ、280ミリのディーゼルエンジンの製造を開始し、鋳物製作から機械加工、組み立てまで一貫して行った。昭和52年（1977年）、小松製作所の産業用高速ディーゼルエンジンを採用した船用高速主機関を開発した。昭和53年（1978年）、製品の品質向上を図るため、数値制御工作機械を導入し、より精密な機械加工が可能となった。

昭和58年（1983年）、アフリカ・北イエメン向けに灌漑農業用エンジンの鋳物製作から機械加工、組立作業、試運転まで一貫して行い、延べ約660台を輸出した。昭和61年（1986年）、オーツカブランドとして第1号となるパッケージ型熱電併給システム「オーツカ・コージェネシステム」を山崎製紙向けに納入した。

平成9年（1997年）には小松フォークリフトとOEM（相手先ブランド）契約を締結し、コマツ製コージェネシステムの製造及び販売を開始した。平成10年（1998年）には日立製作所の指定工場から製造認定工場へと格上げし、日立製常用ディーゼル発電設備の製造を開始した。平成13年（2001年）にはコスモ石油と業務提携し、オンサイト（売電）事業に進出した。

平成18年（2006年）には超低騒音型防災用発電設

備の製造を、平成19年（2007年）には非常電源として無停電電源装置や、クボタ向け防火用ポンプ駆動ユニット（1,200馬力）の製造を開始し、設計から現地試運転まで一貫して行った。平成20年（2008年）にはコマツディーゼル向け船舶補機関（発電機）の製造を開始した。また、現在、横浜市旭区川井本町52-9に開設した「神奈川県横浜営業所（☎045-952-1147）」では、オーストリアのイエンバッハ製ガスエンジンのオーバーホールを行っている。

## 株式会社オオツカ <sup>うすき</sup>（臼杵市）

オーツカグループの修理専門事業場「株式会社オオツカ（松尾重朗社長、☎0972-67-2011）」は大分県臼杵市大字下の江1284番地にある。松尾社長と営業課長の太塚光倫氏からメンテナンス事業の現況を伺った。

同社は、九州地区では他社にさきがけて、船舶検査（JG検査）内燃機関サービス・ステーションの「認定工場」を取得した。認定工場として、船体の検査、船用主機関・補機関の修理、防災用・非常用・常用発電設備の整備、ディーゼルエンジンのオーバーホールを行っている。

昭和50年（1975年）、船舶修理及び検査専門工場を目指し、引揚船台（499G/T）の建設に着工した。昭和51年（1976年）、499G/T引揚船台が完成し、船体修理も手がけるようになった。平成7年（1995年）、大分県臼杵市の本社敷地内に、90m引揚ドックが完成した。平成8年（1996年）、1,000馬力の陸上運転装置を設置した。

## 両社で注力する分野

今後、オーツカディーゼル及びオオツカは共同で、非常用、常用発電設備の新規製造の受注拡大を図るとともに、既設の発電設備の定期点検、点検整備の

受注獲得に努めていく。また、常用発電設備に搭載されているガスエンジンや、船舶用主機関及び補機関(発電設備)、防災用ポンプ駆動ユニットなどに採用されている陸用・船用ディーゼルエンジンのオーバーホール(分解整備)といったメンテナンス事業の受注拡大に注力していく。